



# 坂川建設株式会社

厚生労働省認定「安全衛生優良企業」



# 会 社 概 要

社 名  
本 社  
創 業  
代 表 者  
資 本 金  
事 業 内 容

坂川建設株式会社  
福井県福井市宝永3丁目3番24号  
1910年（明治43）9月1日（108年目）  
代表取締役社長 高田 隆夫  
7,155万円  
総合建設業（ゼネコン）

許可業種

土木工事 建築工事 大工工事 左官工事 とび・土工工事 石工事 屋根工事  
タイル・れんが・ブロック工事 鋼構造物工事 ほ装工事 しゅんせつ工事 板金工事  
防水工事 内装仕上工事 熱絶縁工事 造園工事 建具工事 水道施設工事

営業種目

（土木工事）  
トンネル工事 道路工事 橋梁工事 ダム工事 治山・砂防工事 河川工事 海岸・港湾工事  
上下水道工事 舗装工事 整地工事 その他土木一式工事  
（建築工事）  
公共施設 商業施設 教育関連施設 工場・事務所 医療・福祉施設 集合住宅 社寺仏閣 注文住宅等の  
建築工事 建設工事の調査・測量・企画・設計（監理）・管理 技術指導並びに請負上記に付帯する業務

営 業 所

金沢営業所 南条本店 越前武生営業所 敦賀営業所

# 企業データ

社名	坂川建設株式会社
創業	1910年（明治43）9月1日（108年目）
代表者	代表取締役社長 高田 隆夫
資本金	7,155万円
従業員数	96名（男：88名/女：8名） <b>女性技術者も2名活躍中！</b>
勤務地	主に福井県内
年間休日	105日（会社カレンダーによる）
Webサイト	<a href="http://sakagawa-kk.jp/">http://sakagawa-kk.jp/</a>
登録認証	厚生労働省認定「安全衛生優良企業」認定 ISO9001（品質マネジメントシステム）認証取得 福井県「ふくい結婚応援企業」登録

# 当社の強み

土木・建築工事開始



無事故で安全に施工完了

1番重要



お客様・会社・社員 三方良し



顧客満足・品質が高い・健康



厚生労働省認定「安全衛生優良企業」



# 厚生労働省認定「安全衛生優良企業」

福井県「初」 北陸3県で2社目（建設業では北陸初）

1. 全国で**27社**認定（H28年12月21日現在）

東京海上日動火災保険（株）、トヨタ自動車（株）、日本ハム北海道販売（株）、  
パナソニックエコソリューションズ池田電機（株）、（株）七十七銀行、  
（株）みちのく銀行、建設業8社 etc

2. 安全衛生優良企業とは、労働者の安全や健康を確保するための対策に積極的に  
取り組み、高い安全衛生水準を維持・改善しているとして、厚生労働省から認定を  
受けた企業のことです。

3. アニバーサリー誕生日休暇（誕生月内もしくはその翌月内）

4. 過去3年間労働安全衛生関連の重大な法違反が無いなどの基本事項に加え、労働  
者の健康保持増進対策、メンタルヘルス対策、過重労働対策、安全管理など、幅広  
い分野で積極的な取り組みを行っている事が求められます。

A blue horizontal scroll with rounded ends and a vertical strip on the left side, resembling a traditional Japanese scroll. The text is written in white on the main body of the scroll.

# 坂川建設(株)社長方針

# 「健康」と「安全」は、全てに優先する

＜働くための条件＞

会社としては、人命尊重を理念とし、「健康」と「安全」を確保し、快適な職場環境を推進したく、安全設備・安全作業はもちろんであるが、その前に、「社員の健康が会社の健康である」を基本に、社員の健康を管理するとともに、仕事中と治療の環境にも配慮し、社員の心と身体がベストな状態で、仕事に励む。

# 平成28年度安全衛生管理計画書

## 坂川建設株式会社 平成28年度 安全衛生管理計画書

※坂川建設グループスローガン：10S(整理、整頓、清潔、清掃、整け、設備の点検・整備、作業手順、習慣化、先取り対策、参加)を徹底し、めざすは『危険ゼロ』  
※安全衛生推進協力会スローガン：目指すゴールは危険ゼロ 決意新たに職場の安全

平成28年3月

安全衛生方針	坂川建設株式会社は、社長方針の「安全は全てに優先する」に基づき、「安全」と「健康」の確保を最優先し、安全で快適な職場環境を形成するとともに、安全衛生水準を向上させるため、以下の事項の重要性を認識し、『労働安全衛生の仕組み（労働安全衛生マネジメントシステム）』に沿って、全役員及び全社員の協力の下にシステムの維持と継続的な改善に努める。 1. 労働安全衛生の仕組みによる安全衛生管理活動を事業展開の中で重要業務に位置づけ、継続、維持を図る。 2. 労働安全衛生関係法令等を確実に遵守する。 3. 社内の規則等を遵守する。 4. 協力業者等との協調のもとに「労働安全衛生の仕組み」を推進する。 5. 安全衛生確保のため安全衛生教育を継続的に行う。 6. <b>健康経営を目指し、健康管理・健康づくりを推進する。</b>	安全衛生目標  <b>1. 労働災害『ゼロ』、事故『ゼロ』 2. 心の健康問題の発生『ゼロ』 3. 安全衛生優良企業の認定</b>  (坂川建設開店社の長期目標：無災害記録…450万時間、および4,050日)
--------	---	--

★赤文字は新規の対策																				
重点施策	具体的実施項目	部 門					達成目標	平成28年					平成29年					実施上の留意点		
		土木部	電気部	安全部	総務部	営業部		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		2月	3月
1. バックホウ及び架空線に係る事故・災害の防止	① 架空線等の注意喚起看板の設置、重機に注意喚起シール、マグネット等を貼付、及び人との接触防止に立ち入り禁止ステッカーを貼付したレッドコーンで区画を行い、「見える化」を図る。	◎	◎	○	○	○	巡視等でのバックホウ及び架空線に関する指摘・指導数5件以下	←												・「バックホウ等」の事故・災害防止運動実施基準」の周知・教育は教育訓練時に行う。
	② 架空物、埋設部等支障物件の現地調査は、作業所と本社が合同で行なう。	◎	◎	◎	○	○	実施率100%	←												・現地調査は、施工検討会までに行なう。
2. 熱中症の予防	① 職長は、作業員一人一人の健康状態について、作業開始前、10時、12時、15時、及び作業終了時に元請に報告・記録・提示する。	◎	◎	◎	○	○	熱中症による休業0日	←												・作業開始前にWBGT値（熱中症指数）を周知する等、注意喚起を促す。
	② 熱中症予防の教育を行なうと共に、協力会社は熱中症予防対策を作業所に提出する。	◎	◎	◎	○	○	熱中症による休業0日	←												・教育資料に、DVD、リーフレット、小冊子等を使用する。
	③ 熱中症予防の作業環境（日よけ、冷房等）を整備する。	◎	◎	◎	○	○	熱中症による休業0日	←												・飲料水、熱中症グッズ等は協力会社、又は各自が用意する。
3. 作業床端部、掘削法肩、足場等からの墜落災害の防止	① 躯体・デッキ・階段回り、掘削法肩等の作業床の端部は、手すり、囲い又は防柵を施工計画により先行設置し、統括者等は確認する。	◎	◎	◎	○	○	安全・品質巡視等における、開口部（墜落）に関する指摘数10件以下	←												・高さ2m以上の作業床の端部、及びこう配40度(1:1.2)以上の斜面の箇所は、手すり等墜落防止措置を先行設置する。
	② 本来、開口部に対する墜落防止措置は事業者（職長）責任である事を、教育等により強く認識させ、墜落防止措置に取り組む。	◎	◎	◎	○	○	安全・品質巡視等における、開口部（墜落）に関する指摘数10件以下	←												・元請は、墜落防止柵を先行設置するため連絡・調整を行ない、資材等を貸与する。
4. 健康づくりの増進	① 定期及び特定健康診断後のフォローアップを行なう。	○	○	○	◎	◎	実施率100%	定期健康診断					人間ドック				特定保健指導			・健康保険組合と提携し、特定保健指導を行う他、自己管理の指導により有所見率の減少を目指す。
	② ストレスチェック制度を策定し、心の健康づくり及び活気ある職場を目指す。	○	○	○	◎	◎	実施率100%	周知	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・健康経営を目指し、健康チャレンジ活動を推進し、健康増進をサポートする。
	③ 禁煙・分煙の継続と、禁煙の取り組みの支援を行なう。	◎	◎	◎	◎	◎	分煙100%	←												・禁煙治療者に援助をする。
5. 時間外労働の削減	① 安全衛生委員会が中心となり、時間外労働の把握と改善を図る。	◎	◎	◎	◎	◎	目標：月45時間	←												・時間外労働、休暇、有給休暇の状況を検証しながら、四半期ごとに施策を見直す。
	② 有給休暇の計画取得の推進を図る。	◎	◎	◎	◎	◎	有給休暇取得：5日/年	←												・週1回を家族デー（原則水曜日）として定時で帰宅する。 ・誕生月に有給休暇を計画的に取得する。
6. 職長配置実施基準により良好な安全・品質管理を図る。	① 一次、二次を問わず職長は、リスクアセスメントを取り入れた職長教育を修了した者を配置する。	◎	◎	○	○	○	実施率100%	←												・新規協力業者に対し、事前に「職長の配置実施基準」の周知を行い職長要件の確認を行う。
	② 職長教育、職長再教育（職長のためのリタレント・レベルアップ教育）の実施	○	○	◎	○	○	各年1回、及び随時	←												・職長配置基準の適用は、建設業の許可が必要な業種とする。
7. 安全衛生協力会会員の安全衛生管理能力の向上を図る。	① 部門長、作業所長及び安全部等は、事業主パトロールの要請を強化し、事業者責任と安全衛生管理能力の向上を図る。	◎	◎	○	○	○	事業主パトロール実施率70%	←												・災害防止協議会時に、月に10日以上作業が予定される事業主に、パトロール予定日を定め実施するよう要請する。またそれ以外の事業主にも事業主パトロールの実施を要請する。
	② オーナー会議の開催	○	○	◎	○	○	年2回、参加率100%	○4/25												○10/19
8. 社員の交通事故の防止、及び交通違反件数の減少	① 毎日の車両点検の実施と、安全運転宣言シールの「見える化」により意識向上を図り事故防止を図る。	◎	◎	◎	◎	◎	実施率100%	←												・車両点検表は、主管部へ毎月提出する。
	② 全社員が「無事故無違反の宣言」を行なうと共に、交通安全コンクールに参加し、安全運転に対する意識の高揚を図る。	◎	◎	◎	◎	◎	コンクールでの受賞	←												・交通安全違反時は、自己申告と展開により注意喚起を促す。
	③ 毎月、交通安全に関する情報提供を行い、自己研鑽を促す。	◎	◎	◎	◎	◎	実施率100%	←												・チームリーダーを中心に実施する。
9. その他の行事、計画等	① 安全衛生大会	○	○	◎	○	○	参加率100%													・全社員、及び全協力会会員が参加する。
	② 役員、部長等の作業所災害防止協議会への参加	◎	◎	◎	◎	◎	参加率50%	←												・本社からの通達事項の展開・周知と、協力業者の安全衛生管理に対する指導・教育の強化を図る。
	③ 社員安全衛生教育	○	○	◎	◎	◎	受講率100%	○4/26、27、28												・健康増進に関する教育を行う。
	④ 緊急事態訓練、避難訓練、消火訓練	◎	◎	◎	◎	◎	緊急事態訓練：年2回	○5/25	全国労働衛生週間	労働衛生週間	労働衛生週間	労働衛生週間	労働衛生週間	労働衛生週間	労働衛生週間	労働衛生週間	労働衛生週間	労働衛生週間	労働衛生週間	・緊急事態訓練は現場と本社が連携した訓練を行う。本社の避難訓練、消火訓練は5/25に行なう。
	⑤ 全国安全衛生行事	◎	◎	◎	◎	◎	年4回	○4/25	○5/25	○6/10	○7/10	○8/10	○9/10	○10/10	○11/10	○12/10	○1/10	○2/10	○3/10	・垂れ幕、ポスター、ワッペンを配布する。
⑥ 坂川建設安全衛生推進協力会の行事等	◎	◎	◎	◎	◎	参加率100%	○4/25	○5/25	○6/10	○7/10	○8/10	○9/10	○10/10	○11/10	○12/10	○1/10	○2/10	○3/10	・顧問として協力会の事業が適正、円滑に行われるよう指導、助言する。	

◎：主管部門 ○：関連部門

月度安全衛生目標	4月	・バックホウ・クレーン等による事故・災害の防止	6月	1.バックホウ等と人、及び架空物等との接触事故の防止 2.心の健康づくりの推進	8月	1.熱中症による災害の防止 2.架空線等の損傷事故の防止	10月	1.重機・クレーン災害の防止 2.有害物等による健康障害の予防	12月	1.転倒(混雑する)作業における接触等による事故・災害の防止 2.円滑なコミュニケーションの推進	2月	・不注意、不安全行動による事故・災害の防止
	5月	・不注意、不安全行動による足場等からの墜落災害の防止	7月	1.重機等による挟まれ事故防止 2.熱中症の予防	9月	1.底所(ローンクッター、脚立足場、うま、梯子等)からの墜落災害の防止 2.熱中症の予防	11月	1.車両系建設機械等による事故・災害の防止 2.墜落による災害の防止	1月	・冬季特有の事故、災害の防止	3月	・車両系建設機械(バックホウ等)による事故・災害の防止



# 平成28年度安全衛生目標

1. 労働災害『ゼロ』、事故『ゼロ』

2. 心の健康問題の発生『ゼロ』

3. 安全衛生優良企業の認定

＜坂川建設株式会社の長期目標＞

無災害記録・・・450万時間、および4,050日

## 重点施策 9項目

1. バックホウ及び架空線に係る事故・災害の防止
2. 熱中症の予防
3. 作業床端部、掘削法肩、足場等からの墜落事故の防止
4. 健康づくりの増進
5. 時間外労働の削減
6. 職長配置実施基準により良好な安全・品質管理を図る
7. 安全衛生協力会会員の安全衛生管理能力の向上を図る
8. 社員の交通事故の防止及び、交通違反件数の減少
9. その他の行事、計画等

## <重点施策>4:健康づくりの増進

- ①定期健康診断後のフォローアップを行なう。
- ②メンタルヘルス対策(ストレスチェック制度を策定、実施)
- ③禁煙・分煙の継続と、禁煙の取り組みの支援を行なう。
- ④健康チャレンジ活動を推進し、健康増進をサポートする。

### ③禁煙・分煙の継続と、禁煙の取り組みの支援を行う。



- ④健康チャレンジ活動を推進し、  
健康増進をサポートする。

## ＜健康チャレンジ活動に対する社内規程＞

### 1. 禁煙対策

非喫煙者を目指す者に、禁煙外来の治療費を補助する。

### 2. 健康増進対策

①1日8000歩、月に24日以上達成した者に健康手当を支給する。

②健康保持・増進のために定期的に運動(スポーツジム等)を週3日以上取り組んでいる者に健康手当を支給する。

## <重点施策>5:時間外労働の削減

- ①安全衛生委員会が中心となり、時間外労働の把握と改善を図る(時間外労働、休暇、有給休暇の状況を検証しながら、四半期毎に施策を見直す)

### <対策>

- ・日報記入後、都度所属長が確認
- ・毎週水曜日はノー残業Day

- ②有給休暇の計画取得の推進を図る

### <対策>

- ・アニバーサリー休暇(誕生月内もしくは翌月内)

# その他の安全衛生活動



## 施工検討会



## 特定工種施工検討会





# “見える化”を推進しています。



# 仕事内容

## 土木・建築業を展開する「総合建設業」

### 土木工事

- トンネル工事
- 道路工事(高速/一般道)
- 橋梁工事
- 河川護岸工事
- ダム工事
- 農業用排水工事 etc..

### 建築工事

- 公共施設
- 保育園・小中学校・大学
- 医療・福祉施設
- 商業施設
- 工場・事務所
- 社寺仏閣
- 集合住宅
- 個人住宅 etc..



# 完成工事紹介(土木工事)



福井県 ホノケ山トンネル 2,709m



# 完成工事紹介(土木工事)



中日本高速(株) 東海北陸自動車道 南砺スマートインターチェンジ工事



# 完成工事紹介（建築工事）



ジュエリースカラベ新築工事（都市景観賞受賞）



# 完成工事紹介(建築工事)



福井県 御廊下橋復元工事(福井県知事賞)

# 主な仕事

## 【施工管理】

- ①工程管理
  - ②安全管理
  - ③品質管理
  - ④原価管理
- 発注者への打ち合わせや  
現場で働く人々や技術者へ  
の指導、監督が主な仕事で  
す。

主な資格として

土木施工管理技士、建築施工管理技士  
(共に1級・2級)

# 新しい取り組み

【ICT:Information Communication Technology】  
情報伝達技術の全面的な活用

- ・国土交通省推奨
- ・建設現場における生産性の向上
- ・魅力ある建設現場を目指す
- ・企業の経営環境を改善

i-Constractionを2016年に導入



# 【① i-Constractionは測量時間の短縮】

・ドローンを使用します。



「空中写真測量」を行う。

# 【① i-Constractionは測量時間の短縮】

- ・人工衛星から座標を求めます。





# 【① i-Constractionは測量時間の短縮】

## ・標定点

- ・撮影箇所に数枚
- ・撮影した写真に  
同じ標定点が写る
- ・標定点同士を重ね
- ・ズレを補正する





# 【① i-Constructionは測量時間の短縮】

## ・3Dデータ完成





## 【② i-Constructionは作業効率アップ】

### マシンガイダンスによる法面整形作業



## 会社風土

- ①社員間の交流は、50歳未満の社員が毎年6月頃に1泊して交流を図ります。
- ②役員・幹部の方が積極的に話掛けてくれ交流しやすい環境
- ③離職率が低い（公務員などへの転職などの理由で退職）



# 社内レクレーション活動



芝政リレーマラソン スポーツは体と心の健康をささえます



# 互助会活動 マレットゴルフ大会

## 家族重視の企業は常に成長します



平成27年 7月19日



# 社員研修旅行

社員研修旅行を通じて社員間の交流とリフレッシュを行います。

海外班と国内班に分かれて、社員研修旅行を行いました。

広島旅行班



タイ旅行班



平成28年4月

ご静聴ありがとうございました